

医療レポート

一、厳寒の中で

例年にならない寒波の襲来で、深夜青カン（野宿）を強いられた日雇労働者の現実には、私たちの想像をはるかに越えたものがありました。

たとえば、路上に倒れ、きびしい寒さを防ぐすべもないまま、ふるえ、たたずむ労働者を日に日に三十人も四十人も見ました。あるいは、吹きさらしの軒下で汚れた小さなフトンに仲間と身を寄せ合って寝ている人たちもいました。日中でも町角のたまり場では、たき火のすすで黒ずんだ疲れた顔がいやおうなく目に止まりました。そして、その多くの人々が口数少なげに、ただひたすら生活の重圧に耐えているようでした。

二、医療活動

私たちの活動の任務は、ひと口でいえば、「不況で苦しみ、凍死してゆく日雇労働者を防ぐ」ことでした。

そこで、越冬期間中は医療問題を中心に次の二つの活動を行いました。

(一) 医療パトロール

(一) 医療券の発行と病院付きそい、それに入院した患者の見舞いなどです。

(二) 医療パトロール

昨年十二月二十五日より一月十七日までを K U I M と地域研担当で、午前二時と午後八時の二回行い、以後二月末日までを協友会の担当で午後十一時だけの一日一回の体制で行いました。期間中のパトロールの延べ回数は九十二回を数え、キリスト教関係支援グループ参加の延べ人員は約九〇〇人になりました。また青カン者の確認は延べ千八百人で、日に平均すると約百四十人になります。越冬闘争の拠点仏現寺公園へ連れてきた人数は三百七人、応急手当をした人は約百六十人、私たちの手に負えない重傷の病人に飢えと寒さで硬直状態の人に救急者を呼んだ回数は六十

回でした。

○青カン者統計グラフに見る実態と問題点

グラフは十二月二十五日より一月十七日までの午前二時のパトロールに確認したものです。このグラフ中、十二月二十九日より十日まで、大阪市は年末年始特別対策として臨時宿泊所の開設を行い、「あいらん地区に住んでいる単身の日雇労働者のかたで、寝るところや食費がなくてほんとうに困っている人について臨時宿泊所を開設する」という文章を地域内三カ所に掲示しました。対象の宿泊者は八百人で、入所条件はいりん職業安定所発行の手帳が必要ということです。しかし、その手帳所持の条件としては、ドヤ証明がなくてはなりません。そのことはとりもなおさず、仕事があって、泊まるお金があるということなのです。だから、生計困難な青カンを強いられている人たちは初めから対象外です。市は先に、対象者として、ほんとうに困っている人のためと言いつつながら、その実、

色々な規約を作り上げて弱者を切り捨てているのです。それは、グラフにみるとおり、その期間は元旦をピークに青カン者数がむしろ増えていくという事実が物語っていると断言していいでしょう。

日雇労働者は、日本経済構造の末端部に位置し、つねに景気変動の調整弁として、経済的不安定を強いられ、また、仕事は苛酷で危険度が高い。そんな中で、このグラフは、労働などで身体が不自由になったり、病気になるたりしたらならん対策の対象にならず、再浮上は絶望的ということの意味しています。

(一) 医療券の発行とその他

医療券は保険未加入で治療費を自費負担できない人を対象に、越冬闘争実行委員会と社会医療センターの越冬対策として発行されているものです。その負担費用は大阪市と府となっており、医療券には患者の氏名、生年月日、住所、病状などを記入します。

越冬期間中の発行延べ枚数は四九三枚、一日平均八枚、患者の平均年齢は四四、四才となっています。

大阪社会医療センター（略して医療センターと呼ぶ。）仏現寺公園から五十メートルは

ど北寄りであり、内・神経・精神・小児・外・整形外・皮膚・泌尿器・放射線の各科を持つ総合病院で、地域のニードに応じ生活困難者に対する医療を重点的に行っている。

大阪市立更生相談所（略して市更相と呼ぶ）大阪民生局に属する行政機関で釜ヶ崎の単身労働者の生活相談所である。一般には福祉事務所の業務であるが、ここ西成区では釜ヶ崎の労働者に限って大阪市立更生相談所が担当する。

○なぜ重病人が入院できないのか

私たちは仏現寺公園で医療券を発行し、みんな集って病院（医療センター）へ行き、診療後は、医師が入院を必要と認めた人と共に市更相に行くわけですが、その行動は、まず一日仕事に匹敵するくらいの忍耐を必要とします。

資料でみる患者の傷病名も、医師でない私たちにその病状も解しがたいが、ただ、この人たちの約八割が夜空の下で汚ないフトンにくるまり青カンを強いられることであった。これは患者の病気以前の衣食住の生活問題まで背負った中での状態である。そのことを考えると、一日も早く入院することが先決だった。しかし、現実には、たとえ医師が入

院を必要と診断を下しても、大阪市立更生相談所は、入院の手続きをとらなかつた。

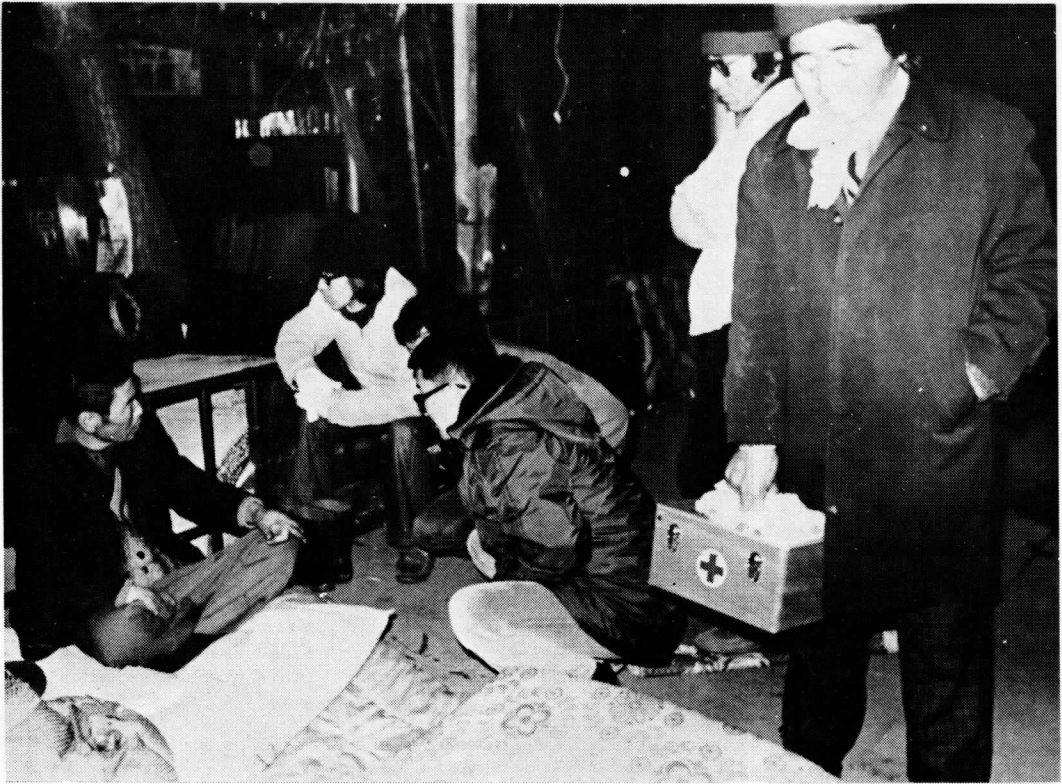
○結核患者の入院拒否

中でも、特に心配したのは結核患者の問題でした。グラフに見るAさんは十二月二十五日をかきりに二月十七日までの五十四日間合計六回、市更相へかよって、ようやく広崎病院へ入院しました。

Bさんは下半身不随で松葉杖をつきながら計六回行った後、どうなったか公園には姿を現わさなくなりました。

○なぜ結核予防法に規定された法律が日雇労働者に適応されないのでしょうか。

釜ヶ崎における結核患者の実態は正確につかめませんが医療券に見る限りでは八人に一人の割になっています。全国的には医学の進歩と生活の向上で結核は過去の病いとされ、各地の病院閉鎖がつづいています。しかし、釜ヶ崎や山谷（東京）などの寄せ場ではむしろ少しずつ増えているといわれています。各地の病院閉鎖と寄せ場における結核患者の増加において、近隣病院ではベッド数の不足から入院拒否という現象が表われ、釜ヶ崎の結核患者は野放し状態にあると言います。結核においては患者自身の問題もさることながら、



午前2時の医療パトロール 入院拒否された結核患者と話し合う
(1976年12月 於三角公園)

仲間への感染が心配されます。私たちはこの問題をたとえば朝日新聞一月二六日の「声」欄に投稿しました。また、市更相のみならず、保健所、区役所、市役所、そして大阪市環境保健局へと労働者みずからが交渉してきました。しかし、釜ヶ崎における民生局の実務的窓口は市更相と決められている限り、この問題は交渉も困難をきわめています。

市更相での受付は、患者が過去に強制退院（病院の規則に違反して退院させられること）などの経験者はほとんど追い帰えされます。しかし、市更相がそれら過去の問題を患者個人だけの責任として押しつけ、何ら対策を講じないで切りすててゆくところに深い疑問を持ちました。そこでは患者の言い分はとおらず、ある労働者は、「説教ばかりたれる、俺達の立場になって考えてくれへん」と言っていました。

私たちは市更相へ患者と共に毎日、足を運びました。医療券発行と共に労働者の医療問題に日夜努力していました。しかし、市更相の私たちに對する態度は、労働者への態度と同じく、一貫した権威的なものでした。また、労働者と支援者の分断をはかるがごとく、「労働者のプライバシーを守る」という理由で、

相談室への労働者との同席を禁じ、部屋にそなえたマジックミラーで私たちの行動を監視していました。こうゆうやり方で、たとえば、職員のみわりくどい話術やむつかしい法律用語に、はたして労働者がどこまで自らの権利を主張できたのでしょうか。また、私たちは入院できた労働者に対しアフターケアを予定していましたが、市更相は、労働者の入院先も、先と同じ理由で知らせませんでした。そのため、私たちが取った手段として、労働者へハガキを渡し、入院先から越冬実医療班の方へ出すように頼みました。しかし、このような手間は、少数のメンバーでやっている私たちの活動で、その後の追跡調査などにひとりひとりの確認ができなかった原因になりました。

○病院訪問

市更相から入院できた人、また医療パトロール中に救急車で入院した人、それらの数は正確にはつかめませんでした。しかし、私たちは、市更相への付きそいの時、労働者へハガキを渡し、入院先から、越冬実医療班の方へ出すように頼みました。そこで回収したハガキは約三〇枚、また、救急車で運ばれた労働者に対しては、その後救急本部に電話で問い合わせた人は約六〇人。入院した人は確認できた分で一五人。

○資料Bに見る出身地の統計とその背後

出身地に見る分類は大まかに別けて(一)大阪、(二)福岡、(三)鹿児島、の順になります。また、病院付きそいの待ち時間などとおして労働者との雑談より知ったことで、過去の職歴は第一次産業に従事していた人が多く、特に九州の炭坑で働いて閉山と共に職を求めて上阪したケース。農業、漁業に働いていたが、地域開発にともない働けなくなったというケー

スです。これらは、日本の工業化、エネルギー革命のもたらしたもののひとつの顕著な例です。市更相から入院できた人、また医療パトロール中に救急車で入院した人、それらの数は正確にはつかめませんでした。しかし、私たちは、市更相への付きそいの時、労働者へハガキを渡し、入院先から、越冬実医療班の方へ出すように頼みました。そこで回収したハガキは約三〇枚、また、救急車で運ばれた労働者に対しては、その後救急本部に電話で問い合わせた人は約六〇人。入院した人は確認できた分で一五人。

もどしたその笑顔に、私たちも言葉に表わせないほのぼのとしたものを感じます。しかし、身寄りの人はほとんど訪ねることなく、日々は孤独な生活を送っています。また、決められている生活保護金は月一万円前後で、月末に支給されますが、入院当初はお金に困っている様です。そこで、私たちは下着と洗面具、ある時は、ストローム先生の心暖まる手作りキーキなどを差し入れたりしました。病院の設備については、個々の病院により差を感じました。A病院ではくみ取り式の便所、医師の回診も月に一・二回と言われま

公立(市・府立)がほとんどない。(三)大阪府下がほとんどだが、遠距離の病院もあります。地域の近隣にある病院で行路病者対象の指定特別病床を、労働者は「釜病床」と呼びます。びっしりとつまったベッド。個人のロッカー設備などなく、おそまつな棚には、紙袋から作業服や長靴がのぞいていたりします。私たちが訪問して、まず感じることは、サッパリしていることです。また、元気をとり

またC病院は、点滴注射の後始末(注射のぬき取り)をセルフサービスでやらせるといった具合でした。以上の病院は民間病院ですが、たまたま府立の病院に入院した患者を見舞って、行きとどいた設備と明るい雰囲気は民間との差を感じました。また、強制退院な

どで問題になる病院ほど設備が悪い点は、ト
ラブルの原因が患者自身にのみあるという市
更相の決めつけ方が誤っているひとつの例と
して受けとれます。

○今後の私たちの医療活動

越冬支援体制を解散して、私たちは新たに
医療を考える会を発足させました。現在では
越冬支援の残務整理と学習会、病院訪問など
取り組める部分からメンバーを動員して活動
しています。具体的に記すと。

(一)定例会——毎週水曜日七時～九時PM

医療と言っても私たちは限られた範囲でし
か知りません。そこで第一回目の定例会
(四月二十七日)は福祉事務所の方に来ていた
だいて、「地域における福祉行政機構とその
働き」などについて語ってもらいました。ま
た今後は、日雇労働者との交流から学んだり
私たち自身で諸問題を調べて、それをもちよ
り、みんなで検討し合う場にしたと思います。
す。

(二)病院訪問

越冬期間中にケガや病気の日雇労働者が入
院しましたので、その人たちを見舞い、その
実態をつかむことにしました。具体的には、
入院先の病院へ面会に行つて、容態を聞き、

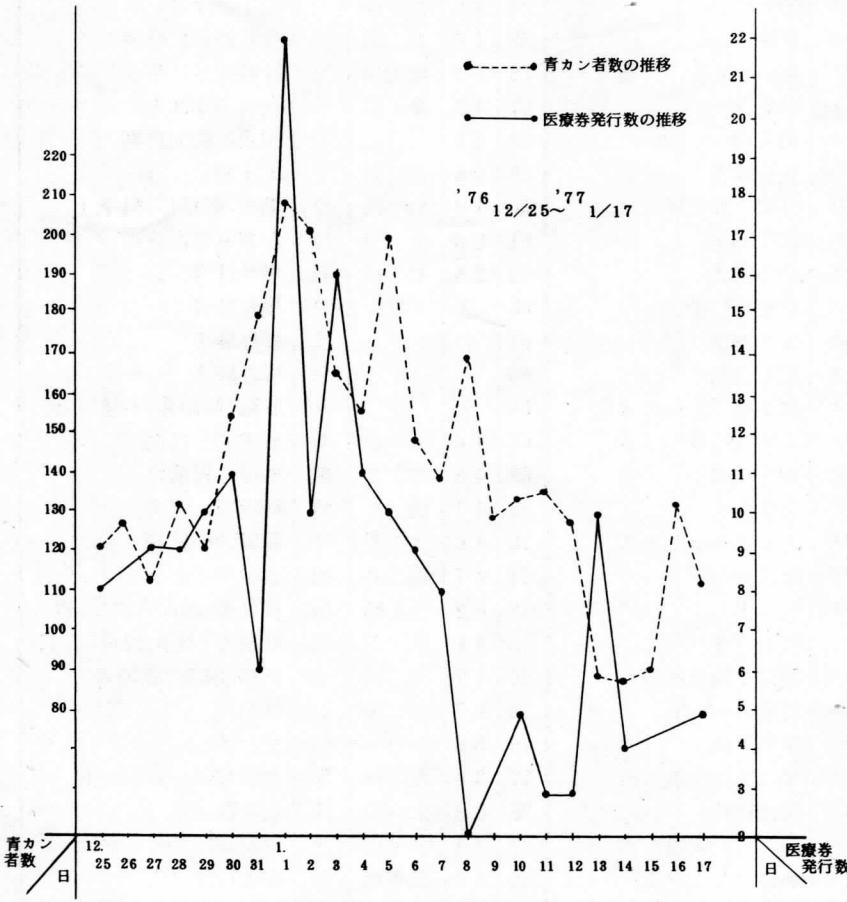
はげまし、できる範囲で援助しようというも
のです。

ただ、私たちは、これらの活動は、日雇労
働者との個人的関係を問題視するというので
はなく、日雇労働者の置かれている立場、お

よびその状況に多くの問題があるということ
を越冬支援活動の中で確認しました。この点
をどう位置づけて活動していくかが今後の課
題だと思えます。

小杉 邦夫

資料A 青カン者数と医療券発行の推移



76' 12/25 ~ 77' 1/17 医療券にみる統計

資料B-1

年令	本籍	手帳	病名	年令	本籍	手帳	病名		
1	54	北海道	無	つき指	41	59	佐賀	？	高血圧, 狭心症
2	48	大阪	有	手術後ゆ着症	42	48	大阪	有	腰痛
3	41	鹿児島	無	急性肝炎, 肺結核	43	44	？	？	？
4	43	兵庫	無	両足部痛	44	46	？	？	？
5	46	福岡	無	腰が痛い	45	41	？	？	？
6	44	？	無	火傷	46	40	？	？	？
7	44	長崎	？	足胸腰痛症	47	47	兵庫	？	？
8	41	東京	無	胸が痛む	48	47	横浜	？	？
9	41	福井	無	傷が化膿	49	47	大阪	？	高血圧(180~100)
10	48	山口	無	火傷(右足)	50	33	岡山	無	両股白蓋不全
11	44	兵庫	無	肺結核	51	59	和歌山	無	左足骨折(50年1月~)
12	44	福岡	無	肝臓障害	52	35	大阪	無	腰痛症
13	43	福岡	無	足骨折	53	36	岡山	無	慢性肝炎
14	44	鳥取	無	肺結核	54	45	兵庫	？	左半身マヒ
15	46	熊本	無	肝臓障害	55	46	大阪	？	慢性肝炎, 胃炎
16	41	大阪	？	足のむくみ, 外傷	56	41	鹿児島	？	肝硬変症, 咯血
17	42	岡山	？	左足?	57	49	徳島	？	左ヒジ関節炎
18	35	徳島	？	糖尿病	58	50	？	？	両足, 顔面挫創
19	41	熊本	？	肝臓障害	59	44	福岡	？	五十肩
20	？	徳島	有	耳鳴, 高血圧	60	43	鳥取	？	糖尿, 肺結核(34条)
21	48	大阪	有	結核35条	61	53	奈良	無	左睾丸部術後痛
22	42	？	？	結核35条	62	26	福岡	無	慢性肝炎
23	39	？	？	左腰部打撲症	63	？	？	？	慢性肝炎
24	38	北海道	？	頭部挫創	64	？	？	？	慢性肝炎
25	49	山口	？	両足関節症	65	？	？	？	慢性肝炎
26	39	鹿児島	？	肺結核手術後の後遺	66	？	？	？	肝臓, 肝硬変, 右肢マヒ
27	46	鳥取	？	左胸部打撲	67	46	岐阜	有	肝障害, 貧血
28	52	韓国	有	胸部結核	68	48	大阪	無	外傷, 胃潰瘍
29	47	大阪	？	気管支炎	69	41	熊本	無	肝傷害, 胃炎
30	？	？	？	右足に水がたまる	70	40	大阪	？	肝臓 肺結核
31	46	？	？	腸閉塞	71	47	福井	無	右膝関節炎
32	48	大阪	？	肝障害	72	42	長崎	無	肝硬変, 顔面, 瘰癧症, 胃炎
33	59	三重	？	疲れやすい	73	44	大阪	無	肝硬変(疑), 胃炎
34	46	秋田	？	腰痛, 慢性肝炎	74	47	大阪	？	結核(34条)肺障害
35	43	長崎	？	胃痛, 高血圧	75	37	大阪	無	肺結核
36	？	？	？	気管支炎	76	58	？	無	足, 手
37	44	？	？	第12胸椎圧迫骨折	77	39	愛媛	無	前頭部, 耳, 右手指
38	32	？	？	胸部打撲	78	33	大阪	無	右手掌切創
39	49	大阪	有	肝障害, 胃腸障害	79	44	秋田	？	胃炎, 肝障害, 高血圧
40	37	兵庫	？	右足はれている	80	40	鹿児島	無	左胸打撲, 胃炎

資料B-2

年令	本籍	手帳	病名	年令	本籍	手帳	病名		
81	40	兵庫	無	肋膜, 水がたまる	123	57	福岡	?	腰痛症
82	35	徳島	無	胃痛, 食後はき気	124	38	福岡	?	脳卒中後遺症
83	50	兵庫	?	糖尿病, 慢性骨炎	125	56	大阪	有	高血圧, 肝障害
84	43	大阪	有	肝臓, 肝硬変	126	33	福岡	?	アルコール性末梢神経炎
85	29	愛媛	無	後頭部痛, 全身性中毒	127	40	佐賀	無	左膝骨性強直
86	43	大阪	無	左中指末節骨折	128	40	?	有	肝硬変, 腹膜炎
87	47	高知	無	両手神経痛, 両上肢痛	129	?	?	無	肝障害, 火傷
88	38	宮崎	無	太もも入院必要あり	130	45	?	?	肺結核
89	45	長崎	無	腰痛症	131	42	愛媛	有	前脳部打撲
90	41	京都	有	右胸部打撲	132	49	鹿児島	無	頸椎関節症の疑い
91	42	富山	無	右股拘縮及び痛み	133	60	東京	無	腰痛症
92	37	宮崎	無	胃炎	134	58	静岡	無	肝臓, 糖尿, 結核
93	37	北海道	無	頭部挫創, 右足ヤケド	135	76	三重	?	心臓, 肝臓
94	46	千葉	無	左側胸部縫針挿入	136	56	大阪	?	肝炎, 結核
95	53	福岡	有	肝障害, 頭部挫創	137	40	?	?	肺結核(34条)
96	49	徳島	?	左足骨折, 左膝関節炎	138	43	?	?	高血圧
97	41	奈良	?	肺結核(35条)	139	36	?	?	右肩, 太腿部打撲
98	45	広島	?	顔面挫創	140	50	?	?	両足凍瘡
99	46	鹿児島	?	右太もも, 右腕のはれ	141	42	?	?	腹部腫瘍, 右足
100	42	広島	?	顔面挫創抜糸	142	61	?	無	肝硬変症, 右下肢炎傷
101	31	鹿児島	?	足のヤケド, 腹痛	143	44	?	?	右第8肋骨骨折
102	38	?	?	右股腫瘍, 右膝関節炎	144	40	?	有	肺結核
103	40	?	?	肝硬変, 管出血	145	53	?	無	痛風
104	31	?	有	胃炎	146	51	?	無	左半身マヒ, 打撲症
105	52	?	?	肺結核35条	147	49	佐賀	無	結核, 心不全
106	28	京都	?	胃炎, 気管支炎	148	45	鹿児島	無	閉塞性動脈硬化症
107	36	宮崎	?	?	149	?	?	有	脱臼
108	45	広島	?	顔面挫創	150	59	和歌山	無	顔面挫創
109	?	徳島	?	左膝関節炎	151	36	?	無	顔面第2熱傷
110	37	?	?	高血圧, 脳卒中後遺症	152	45	?	無	肝炎, 糖尿病
111	33	?	?	右第二指挫創	153	57	静岡	無	肺結核35条, 皮フ症
112	59	福岡	?	右膝変形性関節症	154	54	?	無	足むくれている
113	52	大阪	?	第8肋骨骨折, 高血圧	155	43	?	無	肺結核35条
114	45	北九州	?	顔面挫傷, 左手打撲挫傷	156	52	鹿児島	無	顔面火傷
115	40	兵庫	?	後頭部挫傷, 右耳切創	157	29	?	無	胃炎, 肝障害
116	46	鹿児島	?	肝障害, 左下眼亡失	158	67	大阪	無	腰痛症
117	44	長崎	?	腰痛症					
118	34	鹿児島	?	肺結核(34条)					
119	39	和歌山	?	右足カブレ, 両手アカギレ					
120	47	奈良	?	右第2 基節骨髄炎					
121	63	富山	?	肺結核(34条)					
122	?	鹿児島	有	肺結核(34条)					

△ 激励の手紙から ▽

＊

クリスマスチャングラフにて釜ヶ崎の人達の生活を知り心痛めて居ります。どうぞ今日も、職と食と泊るところを与え給えと祈って居ります。私は77才の老人でございまして、緑内障、高血圧、胃腸病にて寝たり起きたりいたして居りますが、看護婦さんや寮母さんが親切にお世話下さり、何不自由なく養生いたして居りますので感謝いたして居ります。釜ヶ崎の病人の方々もどうぞお医者さんの診察を受けられますように祈っております。

同封のものわずかですが、その方々の為にお使い下さい。

佐藤ます(静岡)

＊

十字架の主を凝視しつつ復活の望みへと結ばれる時、お働きの上に祝福をいのります。あなたの手を冬の'76釜ヶ崎へ'のキャンペーンのありましたことを知って教会員の善意箱にレプタを集めておりました。

こんな時期になって送金するのもどうかと思いましたが、それでもこの種の運動はいつも赤字であることを知っておりますから、御笑納下さいます様にと思い、おくればせながら七千円を送金いたします。

日本キリスト教団 下松教会

＊

前略

私は現在日本キリスト教団永山伝道所の教会員です。去る11月16日〜18日の第9回教団総会へ参加し、その時に釜ヶ崎越冬闘争支援のアピールを受けました。早速帰京後、立山教会や保育園、他立教大・農村伝道神学校などの学生有志へ呼びかけ、カンパを受けました。

誠に少額で申し訳ありませんが越冬の為に少しでもお役に立てればと思っております。

このことを通して私達一人々々が現在の社会情況にめざめ小さなことから連帯してゆける様努力し、また祈っています。

どうか寒さと権力の不当さに敗けることなく闘いがんばって下さい。では用件のみ

にて失礼ですがこれでペンを置きます。

早々

高橋和彦(東京)

＊

わずかですが、食費の足しにして下さい。人間不在の行政の中で、見捨てられた一人の人間を見出さんと労される皆様のお働きに、荒涼とした社会にも一点の光を見る思いがします。

二月の終りまで、寒い中をがんばって下さい。

田中清嗣(広島)

＊

前々から、愛隣地区などの悲しいニュースを聞くたびに、何か役立てることはないものかと考えておりました。

今は、小さな子供がおりますので、自分で活動することはむづかしいですが、友人から越冬の為のカンパのことをきき、少しではありますが役立てていただきたいと思えます。

三匹の小ぶたより(寝屋川)

＊

同封のもの何とぞ雑炊に化けさせてやって下さい。痛みとあついものを以って中間報告をよませていただきました。私の所在が北海道でなければと血が騒ぎます。

主が親しくあなたがたにともなわれますように。

高橋隆教（北海道）

＊

此の冬は一段と厳しい寒さです。金ヶ崎の諸兄の事を思うとじっとしていられますん。

日本に正しい政治が行われ苦しむ者弱い者が真に生きる事の出来る日をひたすら祈ります。

中井（青森）

＊

寒い日が続きますが、研究会の皆様はじめ越冬支援キャンプの皆様はお元気でいらっしやいますか。

「釜だより四号」によりますとY様ご入

院とか、どのようなご様態なのでしょうか？ 一日も早くお元気になるれますようにお祈りいたします。

いつも ご案内をいただき、又、今冬も何とか時間をみつけて参加したいと思いつつ、とうとう二月になってしまいました。ご予約では、一応の越冬支援は二月いっぱいとのこと、その間に一度でも参加したいと、なお思っているのですが、いろいろと忙しく「金ヶ崎はとおい」と、ついため息も出ます。

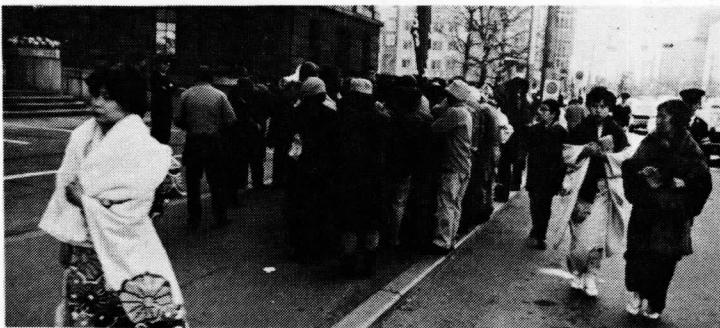
そこで、とりあえず参加したい気持ちをお金に換えることのうしろめたさは感じつつ時期を失したくない、とも思い、参加できません、できなくてもここにカンパを送らせて下さい。わずかですが父の還歴祝にとついていたものの一部です。お役にたてて下さい。

まだまだきびしい寒さがつづくというところで。これ以上、凍死者や重病人が増えませんが、強力的な施策が一日も早くとられるように願っています。皆様も、お疲れが出ませんように、十分にご自愛下さいますように。

とりいそぎ失礼します。

二月一日

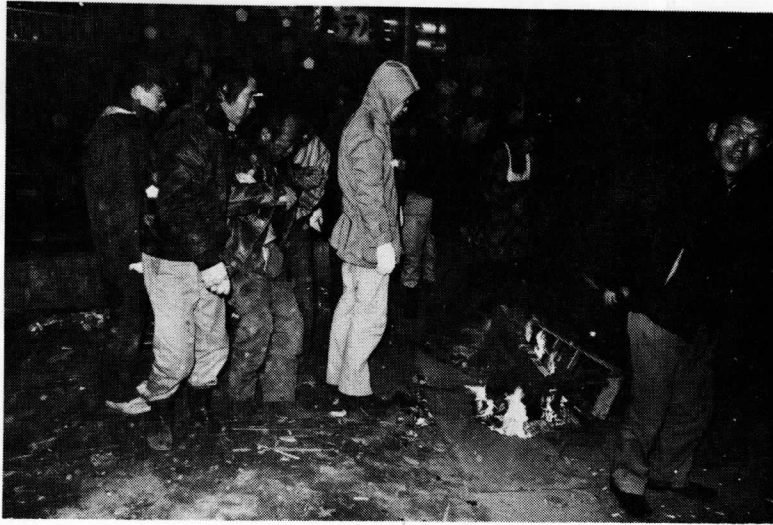
神戸 淑子



「仕事よこせ」と大阪市役所へ行く
(1977年1月4日 大阪市役所前)

医療パトロール中はっておけば凍死する
労働者を保護する

(一九七六年十二月)



越冬支援パトロール日誌より

12月25日

第一回目のパトロールはクリスマス夜の夜。労働者の参加が思いの他多かった。青カン労働者67名。

12月26日

気温マイナス三度。急な冷え込みで大変である。四人を救急車で送った。医療センターの本田良寛氏も職員を動員し、何とか医療センター前で死者を出すまいと懸命である。しかし「死者」が出ないと社会問題化せず、行政が腰を上げない。何と皮肉な事か。ハイシリッヒ神父のところの布団全部が提供される。

12月27日

京都教区社会部からカンパと衣類がトラックで宮田牧師(草津教会)によってとどけられる。
凍死者が出た。国道26号線ガード下でふとんがなかった労働者(53)がF氏によって発見。すでに硬直していた。一同新たにショックをうける。気温一度。

12月28日

小便ガード前の水飲み場から一名病院へ送る。たき火の輪からははずれて倒れていた。火に当たっていた者は知らん顔である。複雑な気持である。教訓!! 8時のパトロールの段階でも一応寝ている人を起して確認する必要がある。労働者に自分たちの仲間の健康に常に気を配りあう様に呼びかける必要がある。

12月29日

a.m 2時のパトロールは昨夜にくらべて風がなく、幾分しのぎやす



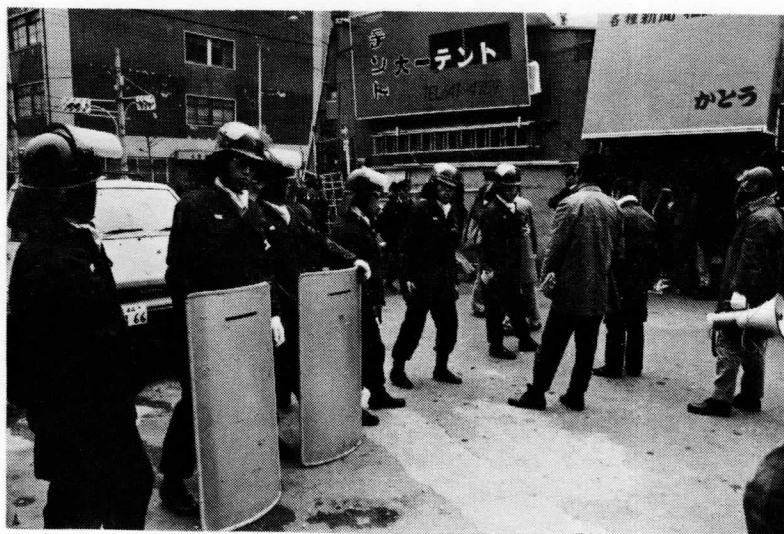
小山さんが路上死したガード下には
花が咲いてあった

(一九七七年一月二日)

12月30日	<p>い。気温一度。小便ガード前で一名救急車で運ぶ。素足で硬直状態。刈込みがあった。機動隊に守られて足立課長ら民生局員が、医療センター前の寝ぐらから30名余りを強引にバスに乗り込ませ、市更相へつれて行く。それでも2時のパトロール時にセンター前に50名以上。青カン者が増えて来た。合計117名。</p> <p>今日から臨時宿泊所の受付けが始まる。去年より警察の横暴が目立つ。三角公園北にて4名手当。</p> <p>夜、9時すぎ焚火用の廃材を運んで来たリヤカーが機動隊にセンター前で妨害される。公園の大半の労働者が抗議にかけつける。夜10時、市公園課が公園の整理という名目で機動隊と共に来た。リヤカーをひっくり返し、立看板を持ち去った。</p> <p>朝5時頃、藤田さん、医療センター前の布団の中で死亡。青カンの場所は大体決まっている様だが人は必ずしも同じではない。</p> <p>臨時無料宿泊所に1000人収容されたというが、青カン者が少しも減っていないとはどういう事か。a.m 2時で206人。南港の臨時宿泊所を見学に行った二人が、不当に2時間余り別個に職質を受ける。毛布60枚、年越そば、ケーキ、みかんなどのカンパが各方面からあった。</p> <p>夜8時より支援者連絡会議がバス(勝利号)の中でもたれた。行政の対応が例年になく厳しい事、臨時宿泊所は昨年以上に設備が悪くなっている事、医療班からふとん提供の要請があった。</p>
12月31日	<p>8時40分、水飲み場にて一名救急車(西成375号)へ。姓名年令不明。手や顔は冷たく、返事も出来ない。まわりの人は全く無関心。27日に亡くなった小山さんの寝ていたガード下に、ウイスキーの</p>
1月1日	
1月2日	

ものものしい臨時宿泊所受付けの朝
奥の建物が市立更生相談所

(一九七六年十二月二九日)



ピンに花が供えられていた。

1月3日
仏現寺公園でもちつき大会。結集した100名の労働者の顔は、闘いの中にはほえましい余裕がチラホラ。

1月4日
朝9時、70名の労働者とバスで大阪市役所へ「仕事をよこせ」とデモ。民生局と公園局から各一名市庁の玄関で押問答。機動隊、守衛に暴力的排除をうける。

1月7日
今夜8時50分、越冬実の稲垣代表が突然「暴力行為違反」という名目で西成署に不当逮捕される。9時半一同で西成署へ抗議に行く。三角公園、水飲み場にはシノギ屋が目立つ。南コースは人数が多い方がよい。北コースは一見してバタヤ風の人が多く、8時のパトロール時にはいなくて、2時のパトロール時には帰って来て青カンしている人が多い。

1月9日
臨時宿泊所へ「延期要求」のデモをかけるため夜6時半バスで南港へ。厳しい規制をうけ、突込んだ闘争は出来なかった為、車内からマイクで訴えた。

1月11日
a.m 2時、雨が降りそうなので、フトンを仏現寺公園からセンターの軒下まで車で運ぼうとした支援の人が、職質を受け、口論の末西成署へ暴力をふるって無理に連行。20名余りが西成署へ抗議に行き、その為にパトロールは2時半より開始。気温は6度でいつもより暖かい夜であったが、西成署の圧力は今後も続くだろう。

我々の専従者S氏、ついに疲労のためダウン。医療センター入院。後任について地域研で話し合う。

1月15日
K U I M、地域研が責任をもつパトロールは明日から協友会にバ



仏現寺公園雪の朝吹き出し

(一九七六年二月十日)

1月29日	1月28日	1月25日	1月24日	1月23日	1月20日	1月19日	1月16日
<p>a.m 6時半医療センター前でまた凍死。 結核35条患者の三人をつれて入院させると西成保健所↓役所↓大 阪市役所(民生局)へと廻ったが、いろんな理由をつけて受付けず、</p>	<p>NHKTV取材。</p>	<p>大阪地裁で稲垣代表の拘留開示裁判あり。バスで労働者40名。傍 聴券があるというものもしきだ。拘留理由に説得性なし。</p>	<p>(約一二〇〇)を手伝って下さる。 ルーテル教会の婦人会の人たち衣類の整理や「中間報告」の発送</p>	<p>崎に於ては堂々と不当でまかり通るところに、日雇労働者への強い 差別を感じる。</p>	<p>だつ。希望の家近くでも車から私服が一日中張込んで監視している。 昼3時、越冬実のF氏逮捕される。これで三人目だ。全くのデッ チ上げ、警察の不当介入にア然とさせられる。法治国家日本が釜ケ</p>	<p>が、シスター達の説得はききめがあり、素直に従っている。 クリスチャングラフから2名取材に来られる。</p>	<p>トントッチ。年末年始から見ると青カン者は目立って減少した。し かし今なお、90名もいる事に注目すべきだ。彼らの多くは病人、障 害者である。これが一年を通じて釜ヶ崎の現状だと思ふ。 これまで夜8時と2時の2回パトロールしたが、越冬実と相談の 上、11時のパトロールのみとする。二月末までの一週間の責任分担 を決める。 たき火やふとんのある公園にくる様に言ってもなかなか応じない</p>

入院をことわれ西成保健所を出る
開放性の結核患者

(一九七七年一月三〇日)



1月31日

タライ回しされ、やっとたどりついた病院でも入院拒否をうける。気温2度。青カン者155名。保護した労働者「ワシはいっつ死んでもええ。死ぬるもんなら早う死にたい」「妻と子が：：(以下不明)」一人の人生に何があり、何が起ったのか、深く考えさせられた。その人の前に立った時「がんばりや」としか云えなかった。

2月1日

再度結核患者を入院させると、大阪市環境保健局へ行き交渉、ついに3人を入院させる事に成功。

2月6日

東京上智大からアジア関係研究室の人たちがパトロールに参加。越冬実との話し合いをした。

今まで救急車で病院に送り込んだ労働者のうち6名を各病院に訪問。無事を確認した。府立病院と私立病院の待遇に大きな格差がある事をまざまざと見せつけられた。

2月7日

今年の冬の行路病死者の調査をした結果、西成区役所でとらえている数字は釜ヶ崎地区内16名。他の西成区域2名となっている。

2月9日

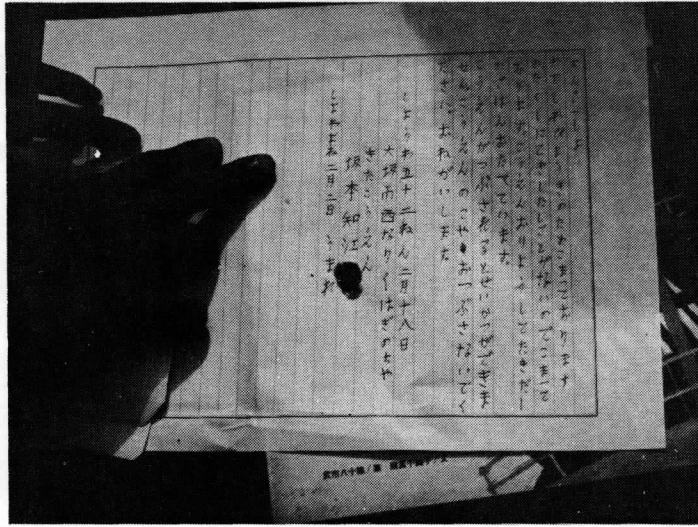
深夜雪が降り出したので、急きょパトロールを出した。雪でぬれたふとんで寝る人を数人保護した。

2月14日

香港からKCCへ研修に来た青年二人、インド人二人、それにストロームさん宅に来たドイツ人女性一人も加わり、神父、シスターそれに日本人を加えたパトロールは、まさにインターナショナルだ。

2月15日

気温マイナス一度。急に冷え込んだ為、心配される人が多く保護した人は10人。新今宮駅北の労働者を保護しようとしたところ、くつもくつ下もはいていなかった。その時すかさず支援の神父は自分のくつをぬぎ労働者にはくつのように云った。その場面にはホロリとし



代執行異議申立書の陳述書を
坂本さんもかいた

(一九七七年二月一八日)

2月18日	<p>た。</p> <p>仏現寺公園の行政代執行が18日と28日となっているため、今日は朝から緊張気味。しかし、公園つぶしに対して我々も署名をあつめ、訴状、執行停止申立を作成し、徹夜で書き上げた。</p> <p>前日までの青カン者延べ六七〇四人、救急車要請60台、医療センターへつきそった人四五三人、炊き出し利用者九五七八人。</p> <p>午後からバザー。西成署から警告にくる。越冬現場研修が今日から始まる。</p>
2月20日	<p>第3回バザー</p>
2月27日	<p>10チャンネルで「俺達の越冬記——横浜寿町の人々」を見る。生活館が拠点になっているのはやはりうらやましいと云わねばならない。</p>
2月28日	<p>最後のパトロールになった。北廻り班では青カン者が暴漢におそわれる事件が発生した。何かと心配の種は減らない。後ろ髪を引かれる思いだ。みんなの表情には仕事を終えた解放感のようなものはなく、問題の大きさに打ちくだかれた様な重苦しさしか感じられない。今後たっぷり時間をかけて、この体験を生かしたい。</p> <p>希望の家大掃除。2カ月以上もの長期間、フルに活用させていた。E・ストローム先生はじめ関係者の人々へ深く感謝します。</p> <p>越冬実による越冬総括会議(宝塚)</p> <p>第一回金ヶ崎労働者学校打合せ会。越冬支援の労働組合、キリスト者等の支援グループと釜ヶ崎日雇労働組合が共催する。</p> <p>キリスト教支援者による総括会議。</p> <p>大阪市により仏現寺公園テント村強制撤去(代執行)さる。</p> <p>日雇労働組合により海道公園で炊き出し再開。</p>
3月5日	
3月18日	
3月26日	
4月7日	
4月9日	

